

社会的企業と社会起業家はその使命を果たせるか

外国語学部フランス語学科3年 伊豆倉竜

近頃、本や新聞などで「社会的企業」や「社会起業家」という言葉が取り上げられるようになり、一種のトレンドであるかのように期待を持って扱われている境遇を目にする。そこには“社会を変える”“未来を変える”というようなフレーズが並び、あたかもポジティブで斬新なものであるかのように紹介されている。社会起業家とその事例を紹介するようなシンポジウムには学生にとどまらず、社会的な事業を行いたいという人々が詰め掛ける。私は社会的使命をビジネスによって果たす企業、というような意味合いで使われているこの言葉にとっても興味を惹かれながらも、本当に意義のあるものなのか、どんな企業のことを指すのか、ただの流行ではないのか、といった疑問を持った。この論文ではこのような疑問に答えを見出すべく、その社会起業家・社会的企業像を概観し、疑問を解消したい。同時に、貧困問題・格差社会や暗いニュースが多い今の日本社会にとって社会的事業が有意義なものであるかを明らかにしたい。

調べていくにあたり、最も困難を要したことは、その社会的企業・社会起業家の定義を明確にすることであった。社会的企業や社会起業家として世に出されているものの多くがそのビジネスの事例を取り上げるだけにとどまることが多く、またその事例がとてつもなく多種多様なものであったため、自分では典型モデルを分類するなどの整理を付けることが難しいと感じた。事例ではなく、その歴史的起源と社会的事業を取り巻く環境に注目していくことで、結果的に「定義となるような典型のモデルは特定できないが、その起源がアメリカ発のものといギリス発の二種類に分けられる」という結論を導いた。

そこで本論分では、第1章でイギリス型の「社会的企業」と第2章でアメリカ型の「社会起業家」とに分けてその起源を追い、第3章でその特徴をまとめ、第4章で日本の社会的事業を取り巻く環境とその事例をみる。最後にその可能性と日本での今後の展望を探り終わりとしていたい。

【目次】

第1章 イギリス型社会的企業の起源と発展

第1節 協同組合運動

第2節 コミュニティ協同組合

第3節 CIC法

第2章 アメリカ型社会起業家の起源と発展

第1節 社会起業家誕生の背景

第2節 アメリカ型社会起業家の特徴

第3章 社会的企業と社会起業家

第1節 アメリカ型とイギリス型の相違点と共通点

第4章 日本における社会的事業の動き

第1節 NPO フローレンス

第2節 日本の市民社会と社会的事業